

平成25年改正省エネルギー基準の「性能基準」と「仕様基準」の概要

※フラット35S（金利Bプラン）省エネルギー性は、平成27年4月以降は改正省エネルギー基準（断熱等性能等級4）に対応した算定が必要です。

性能基準（計算して仕様を決定する）

基準値



地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
U _A 値 (W/(m ² ・k))	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	-
η _A 値	-	-	-	-	3.0	2.8	2.7	3.2

計算式

$$U_A \text{ 値 (外皮平均熱貫流率)} = \frac{\sum (A \times U \times H)}{A}$$

面積 熱貫流率 温度差係数 外皮等面積

$$\eta_A \text{ 値 (平均日射熱取得率)} = \frac{\sum (A \times \eta \times \nu_c \times f_c)}{A}$$

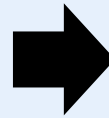
面積 日射熱取得率 方位係数 日射量補正係数 外皮等面積 (η=0.034U)

<U_A値の算定イメージ>

部位	仕様例	(A) 外皮表面積	(U) 熱貫流率	(H) 温度差係数	A×U×H
天井	GW10K 200mm	67.92㎡	0.24W/(m ² ・K)	1.0	16.30W/K
壁	GW16K 100mm	138.13㎡	0.53W/(m ² ・K)	1.0	73.21W/K
床	GW16K 100mm	65.41㎡	0.48W/(m ² ・K)	0.7	21.98W/K
開口部	7ルミサッシ+複層ガラス	32.22㎡	4.65W/(m ² ・K)	1.0	149.82W/K
土間基礎	XPS3種 50(外気側) XPS3種 20(床下側)	3.18m 3.18m	0.82W/(m・K) 1.00W/(m・K)	1.0 0.7	2.61W/K 2.23W/K
合計	-	306.16㎡	-	-	266.14W/K

$$U_A \text{ 値} = 266.14 / 306.16 = 0.87 \text{ W}/(\text{m}^2 \cdot \text{k})$$

プログラム算定 します



部別仕様表 DB 付き
外皮計算システム

部別仕様表の事業者登録はこちら

例) 一般社団法人 住宅性能評価・表示協会
「部別仕様表登録DB付き外皮計算システム」
(<http://www.hyoukakyokai.or.jp/>)

仕様基準（あらかじめ設定された仕様から「選択」する）

Step 1

開口部比率を確認する **!** 開口部比率に条件があります

住宅の種類	1～3地域	4～8地域
一戸建て住宅	11%未満	13%未満
共同住宅等	9%未満	8%未満

ポイント

- ◆トレードオフは使えません
- ◆認定低炭素住宅は使えません

Step 2

外皮の断熱材厚さを選ぶ **!** 概ねH11省エネ基準と同等です

部位	断熱材の厚さ	必要な熱抵抗値	断熱材の種類・厚さ(単位: mm)						
			A-1	A-2	B	C	D	E	F
屋根又は天井	屋根	4.6	240	230	210	185	160	130	105
	天井	4.0	210	200	180	160	140	115	90
壁		2.2	115	110	100	90	75	65	50
	外気に接する部分	3.3	175	165	150	135	115	95	75
床	その他の部分	2.2	115	110	100	90	75	65	50
	外気に接する部分	1.7	90	85	80	70	60	50	40
土間床等の外周部		0.5	30	25	25	20	20	15	15
	その他の部分								

※4～7地域に建設する充填断熱工法の木造軸組工法住宅の場合

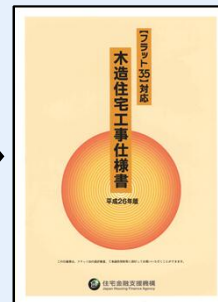
Step 3

開口部の断熱仕様を選ぶ **!** 開口部比率により選択できる窓の種類が異なります

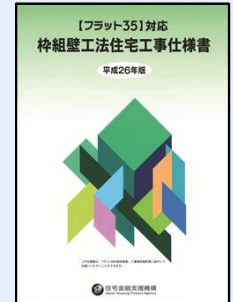
開口部比率（一戸建て住宅）		基準のレベル感
1～3地域	4～8地域	
7%未満	8%未満	H11より低い基準
7%以上 9%未満	8%以上 11%未満	概ねH11省エネ基準と同等
9%以上 11%未満	11%以上 13%未満	H11より高い基準

※他に日射遮蔽性能の基準あり

平成26年版 住宅工事仕様書から 選択します



定価：1,528円＋税



定価：1,833円＋税

発行：井上書院
(<http://www.inoueshoin.co.jp/>)